

展覧会情報

企画展「空から見た日本の地形-『くにかぜ』50周年-」

会場 地図と測量の科学館
電話029-864-1872
期間 7月13日(火)～9月20日(月)

鹿児島県の鉄道歴史紀行

～知ってる?蒸気機関車が走っていた頃～
会場 鹿児島県立ふるさと考古歴史館
電話099-266-0696
期間 7月3日(土)～9月26日(日)

企画展「昭和45年 長岡の鉄道事情」

会場 長岡市立科学博物館
電話0258-32-0546
期間 9月16日(木)～10月24日(日)

福井城と城下町のすがた

会場 福井市立郷土歴史博物館
電話0776-21-0489
期間 9月10日(金)～10月24日(日)

G空間EXPO

会場 パシフィコ横浜
電話03-5684-3356(事務局)
期間 9月19日(日)～21日(火)

巡検開催のご案内

■ 平成22年秋の巡検

○「迅速測図と東京スカイツリー」

「タワーホール船堀」で当財団理事、井口悦男先生の迅速測図のセミナーを開催します。

講演・昼食の後タワーホール展望台から周辺展望、業平橋・押上周辺に電車移動し「東京スカイツリー」の周辺を歩き、浅草で解散(15時頃)予定です。

ご案内：伊藤 等先生(日本大学)

開催日：平成22年10月23日(土)10:00(雨天決行)
集合：「タワーホール船堀」406会議室(都営新宿線船堀駅下車、徒歩約1分)
定員他：25名(参加締切は10月15日(金))

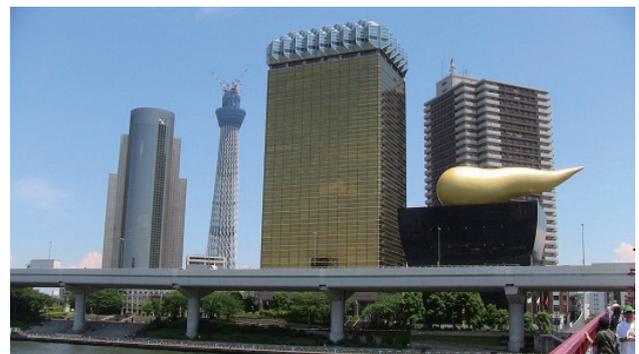
■ 平成22年冬の巡検

○「古河とその周辺」

ご案内：伊藤 等先生(日本大学)
開催日：平成22年12月11日(土)10:00
集合：JR東北本線古河駅改札口
定員他：20名(参加締切は12月3日(金))
参加費：1,500円(資料代、入館料含む)

古河市は日光街道の宿場町。洋学の鷹見泉石を中心とした古河歴史博物館や鷹見泉石記念館、篆刻美術館、古河文学館など見所の多い地域です。平成6年に渡良瀬遊水池を見学しましたが、今回は博物館や市内を中心に歩きます。

申込み：上記秋の巡検と同じ



左から墨田区役所・東京スカイツリー・アサヒビール本社・アサヒビール吾妻橋ホール・吾妻橋ライフタワー

参加費：1,500円(会場費、資料代、移動交通費含む)。
なお現地までの交通費、昼食代は各自ご負担下さい。

申込み：電話 03-3262-1486 Fax. 03-3234-0872
mail chizujoho@coral.bforth.comのいずれか



鷹見泉石(1785-1858)
下総国古河藩家老として、藩主土井利位に仕えた。利位が大阪城代であった折に「大塩平八郎の乱」で鎮圧にあたるなど、大きな働きをした。また、優れた蘭学者でもあり、数多くの研究資料の収集にあたった。渡辺華山の描いた「鷹見泉石像(東京国立博物館蔵)」は西洋の画法も取り入れた近世画の傑作として、国宝に指定されている。

地図 絡み

第42回 佐保路点描

帝京大学理事 井口悦男

平城京の北端、大内裏趾は、学生時代以来ずっと、近鉄西大寺駅から奈良に向かう電車の左窓から眺めることですませてきた。その窓奥には、山城との境界「奈良山」の低い丘が続く。細い赤松の多いやせ地の斜面の終わる辺を、東西に結ぶ旧一条大路の名残り、いわゆる佐保路に、法蓮をはじめとする各集落、寺社、古墳、そして陵墓が点在し、さらに大内裏の草地が、三条大路近くの南側を平行する近鉄線路まで見通せるように広がる。右窓は見渡す限りの水田域で、集落が中に点在する農村域であった。西大寺駅を出るとすぐ左側に広がる車庫地となるが、この先旧奈良市街西端を南北に通る、JR関西本線をまたぐまで、途中に駅はなく、電車はスピードを上げ、一気に市街地入口の「油阪」駅まで駆け抜けた。草地一面の中にところどころ一段高い盛土部分が見え、「土壇」と称され、古都の門や建物趾と言われてきた。

学生時代から半世紀ほど経過する間に、奈良市街地周辺も、盆地の農村域から、京や大阪近郊都市域への歩みを遂げた。それに対応し、宮趾地の保全が急務となり、土地買上げ調査、整備、さらに大内裏の部分復旧、歴史公園化が歩みはじめた。近鉄車庫が90度位置を変更し、橿原線沿いとなったのもこの動きの一端であった。2010(平成22)年は遷都から1300年、節目を祝い「太極殿」が出現した。

荒地に土壇が点在するばかりの宮趾を、遠目に展望し通過した、学生時代の佐保路歩きの一例を、盆地北辺宮趾周囲の雰囲気として述べてみる。奈良市内見学

幹線の循環バス沿いではなく、JR奈良駅前から、市街北はずれ奈良坂下まで往復の「今在家」行の「手貝町」で下車してはじまる。

東大寺の正倉院近くの「轉害門」前から真西に伸びる道に入る。この門は、奈良期生き残りの、至って貴重な、簡素で重厚な造りであるが、鎌倉期再建の仁王のおわず「南大門」の人気とは打って変わり、何時きてもこの門を見上げる姿のない静けさの中にある。

平凡な市街地内の道を歩むと、普通の小川にすぎない佐保川を渡る。そして法蓮町に入る。聖武天皇、光明皇后両陵が右に折れた道の先、丘はずれの小山に並ぶ。西に向かう道筋には、草葺の両端を棟から軒まで瓦止めした特異な入母屋の「法蓮づくり」家屋が残る所であったが、今どうだろうか。

関西本線の踏切を越すが、電化以前は、地面に砂利、枕木、レールが複線であるばかりで、単純で広々としていた。渡ると不退寺への道が右に分かれた。やがて道が曲がり気味になると、法華寺集落に入る。手前右奥に「海龍王寺」、貴族邸宅移建の棟木と白壁が目立つ小堂と、尼寺「法華滅罪寺」で知られる。蓮の葉柄を永々と散らした生花風光背の十一面観音小像が本尊で、光明皇后を模したと伝える唇の紅が印象的である。鑑真和尚のため蚊やりのうちわを作り唐招提寺に届けたことが今も続く。この集落を出ると、南側は広々とした草地となった。秋篠寺まで少々ある。

(5.22初、7.29訂)



海龍王寺の本尊で、国の重要文化財の十一面観音像



「奈良」大正11年測昭和4年鉄道補入、陸測・平城宮蹟、大内裏蹟と一面の水田域に土壇があることで、大正末期にはまだ遺蹟の買上げが進んでいなかったことが分かる(2万5千分1地形図を77%縮小)。